infoteria VISION

第19期中間報告書　2016.4.1～2016.9.30

インフォテリア株式会社

「つながり」による価値の創造。

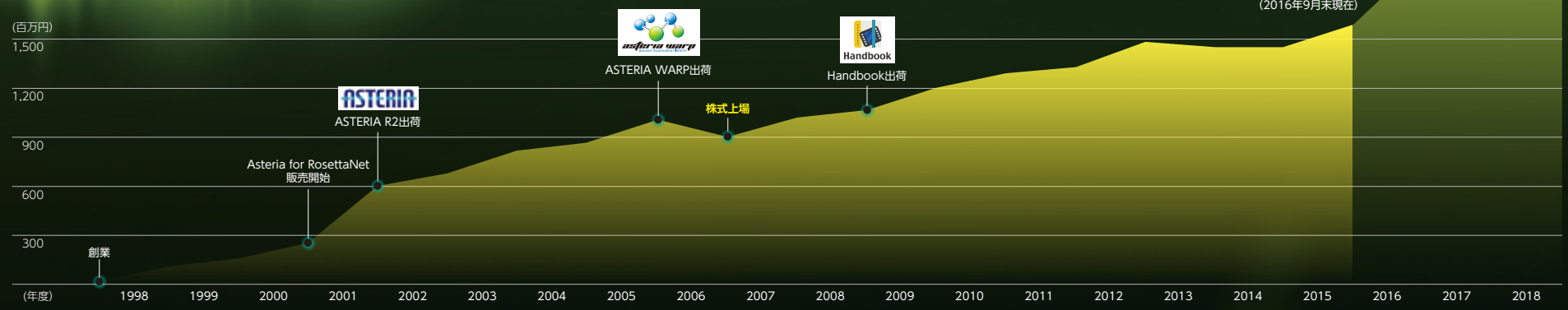
私たちインフォテリアは、インターネットという巨大ネットワークを活用した
新たな「つながり」によってもたらされる企業価値創造の変革こそが、
これからの社会のありようの進化であると確信しています。
「ASTERIA」や「Handbook」をはじめとする製品群、卓越した先見性と技術、
そして豊富な実績をベースに、インフォテリアは、人と人、ビジネスとビジネス、
そして世界を「つなぐ」エキスパートとして、企業の価値創造を飛躍的に高める
ソフトウェアとサービスを開発・提供し、社会に貢献してまいります。

中期経営計画

“ Triple Twenty ”

営業利益率20%台	フロー売上率20%台	海外比率20%台

売上高と沿革



「ASTERIA」「Handbook」の着実な伸長で インフォテリアはさらなる一歩を踏み出します。

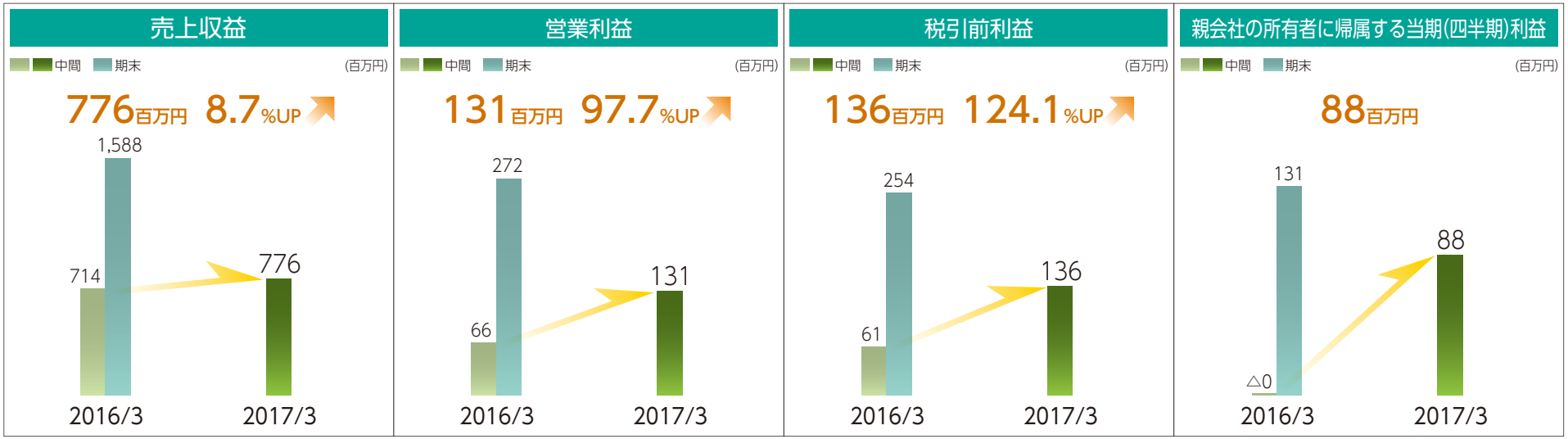
株主の皆様には、平素より格段のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

国内経済は穏やかな持ち直し基調がみられ、当社グループが属するIT（情報技術）産業においては総じて安定したIT予算が確保できており、短期的には安定した投資状況が続くものとみられます。また、クラウドやIoTといった新たな領域では投資を進める企業も引き続き増加しつつあります。

当社グループでは主力製品「ASTERIA」の売上げ伸長や、「Handbook」において積極的な営業・マーケティング活動を進めました。その結果、当第2四半期連結累計期間における売上収益は776,036千円（前年同期比8.7%増）、営業利益は131,222千円（前年同期比97.7%増）、税引前四半期利益は136,045千円（前年同期比124.1%増）、親会社の所有者に帰属する四半期利益は88,099千円（前年同期は親会社の所有者に帰属する四半期損失123千円）となりました。

今後も当社事業の拡大と、さらなる企業価値の向上に取り組んでまいります。株主の皆様におかれましては、今後とも経営へのご理解、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長 / CEO　平野　洋一郎



※当社グループは、2016年3月期より国際会計基準（IFRS）に移行しました。

「Platio(プラティオ)」公式ページ
https://plat.io/

IoT活用モバイルアプリ開発プラットフォーム

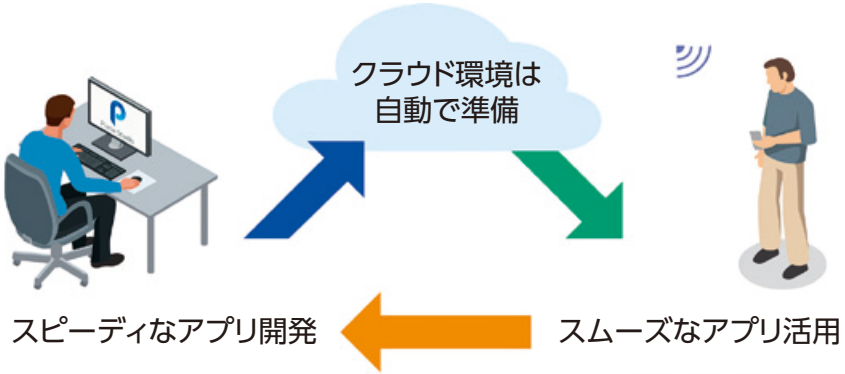
Platio

当社ではIoT(Internet of Things)向けソフトウェア基盤の第1弾として、IoT機器の現場業務での活用を実現するモバイルクラウド基盤「Platio(プラティオ)」を2017年1月下旬から提供開始することを発表しました。

昨今、IoTデバイスを活用した業務の革新や改善が注目され、通信機能を備えた測定器やセンサーが提供され始めています。しかし、一方でそれらを活用するための環境を整えるためには、個々の業務専用アプリの開発やデータの収集、認証情報などのサーバー準備、アプリの配布方法など多くの手順が必要で、現場でのIoT活用へのハードルとなっているのが現状です。

新製品「Platio(プラティオ)」はIoT機器を活用したアプリ開発と、サーバー側プログラムの開発、アプリの配布、システム全体の運用をプログラミングの知識がなくても簡単に行えるモバイルアプリ開発基盤です。利用者はカスタマイズ可能なテンプレートを利用してアプリを簡単に作ることが可能で、そのデータベースはアプリのデータ構造から自動的にクラウド上に準備され、アプリの配布や更新が可能となります。

インフォテリアでは本格的なIoT時代の到来に向け、IoTを活用したビジネス変革を支援するソフトウェア基盤を提供し、IoTを活用した社会システムの進化に貢献してまいります。



<農業での利用イメージ>

血圧計 UA-651BLE

体温計 UT-201BLE

体重計 UC-352BLE

同日に発表されたイフラボ(P4参照)を使ってデモンストレーションでアプリの作成が披露された。

株式会社Cerevoがリリースしているi0T開発モジュール「BlueNinja」。「DIY型IoT」開発環境を2016年度第4四半期より提供していくことも発表された。

「IoT Future Lab.(略称:イフラボ)」開設

ウェブサイト
http://iot.infoteria.com/

IoTに大きな注目が集まり、さまざまな企業からIoT機器やIoT対応プラットフォームが発表されています。しかし、それらを揃え、組み合わせて動かしてみたり、デモを行うことは多くのコストがかかり難しい状況でした。そこで、インフォテリアは2016年10月にIoT Future Lab.(略称:イフラボ)を開設。ここでは、数多くの国内外のIoT機器を常時設置して稼働確認や接続確認を行うことができるだけでなく、IoT機器メーカーが開発中の機器を持ち込んで他の機器やプラットフォームとの接続や連携を確認することを可能とします。セミナースペースや会議室も併設した500平方メートル以上のスペースに100個以上のIoT機器を設置する日本最大級の規模です。さらに、イフラボでは小国杉をふんだんに使った木の温もりのある内装とし、IoTに関するレクチャーや情報交換会を開催することで、人的なつながりの強化にも寄与します。

設置するIoT機器メーカーと機器(一例)

メーカー名(ABC順)	IoT機器名
エーアンドディー(日本)	UM-211(血圧計)、UT-201(体温計)
Amaryllo	iCamPRO Deluxe
Cerevo(日本)	BlueNinja、cloudiss、Hacky、Listnr、他
Sony(日本)	MESH
Parrot(フランス)	Flower Power

CSR

企業版ふるさと納税

仙北市との地域再生計画が「企業版ふるさと納税」対象事業として内閣府より認定

プレスリリースはこちら

秋田県仙北市では、インフォテリアからの事業資金を「企業版ふるさと納税」の対象事業「桜に彩られたまちづくり事業」(桜の保全活動や観光振興活動)として申請を行い内閣府より認定されました。

仙北市とインフォテリアは、2016年度より産業振興に向けたICT導入促進について提携を結び、ドローンで撮影した映像コンテンツをインフォテリアの情報共有サービス「Handbook」を使い観光拠点で閲覧できるようにすることや、タブレットを活用した観光サービスの充実に向けた実証実験などを進めてきました。内閣府より発表された認定を受け、今後は具体的な取り組みを行政と企業が連携し進めてまいります。

CSR

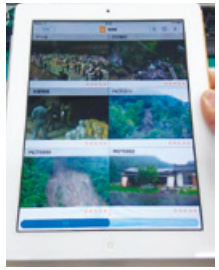
平成28年熊本地震

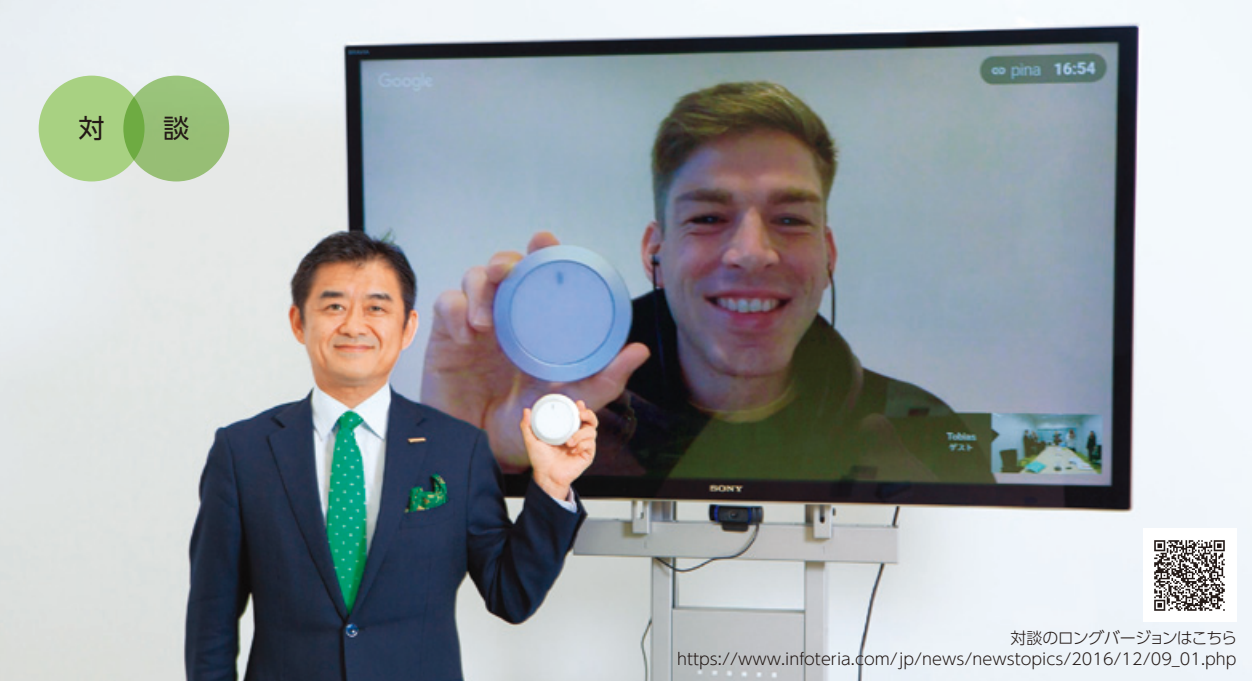
熊本地震発生時に「Handbook」が活躍

プレスリリースはこちら

情報が錯綜する災害時こそ迅速かつ的確に災害対策本部からの情報を現場に伝える必要があります。「平成28年熊本地震」発生時、熊本県小国町役場では自席でのパソコンよりもスマートフォンでの情報の共有・更新を即座に行えることが重要と考え、職員に対し災害待機班の編成情報や災害時の行動マニュアルなどの情報を「Handbook」にて配信しました。災害時は現場での素早い情報共有が重要であり、一定のセキュリティが担保されている「Handbook」によるタブレットやスマートフォンが活用されました。

インフォテリアでは、災害に対する寄付を行うと同時に、情報共有・通知を円滑化することを目的として「Handbook」の無償提供も実施しました。被災地の一日も早い復旧・復興をお祈りするとともに、被災地の皆様にICT(情報通信技術)に関するノウハウの共有も行うことで、その実現に貢献していきたいと考えています。





対談のロングバージョンはこちら
https://www.infoteria.com/jp/news/newstopics/2016/12/09_01.php

平野 洋一郎 × Tobias Eichenwald

平野 洋一郎
インフォテリア代表取締役社長／CEO

Tobias Eichenwald
Senic共同創業者兼CEO

ベルリンを拠点とし、次世代のユーザーインターフェイス開発にフォーカスしたハードウェアとソフトウェア企業Senicを共同で立ち上げ、CEOを務める。デザイン、心理学、経営を学び、OnVistaとMerckなどの企業でUXデザイナー、プロダクトマネジャーを歴任した。国際経験も豊富でドイツのほか、米国、メキシコ、韓国で生活した。

IoTによるソフトウェアとハードウェアの“つながり”

インフォテリアが出資するY Combinator※1発IoTデバイスのスタートアップ「Senic」創業者との対談！

— まずはSenicについて教えてください。

Tobias Eichenwald（以下：Tobias）：私とFelix、Philipの3人で設立したIoTデバイスのスタートアップです。本拠地はドイツ・ベルリンで、私は電子工学、Felixはインダストリアルデザイン、Philipはビジネス/ユーザー体験デザインに明るく、3人ともハードウェアの家系が背景にあります。

企業名のSenicは、人間の感覚（“Se”nse）とIC（集積回路）を組み合わせた造語で、この二つを自然に結びつけて技術の体験を高めるというビジョンを持っています。最初の製品「Nuimo」は、Natural User Interfaceの“NUI”と“Mo”tionを組み合わせた言葉です。家の中で直感的にスマートデバイスとやりとりしたいというニーズに応えるもので、スマートフォンにある音楽をかけるといったことをダイアルを回したりジェスチャー操作で行うことができます。

— インフォテリアとSenicの出会いはY Combinatorとのことですが、お互いの印象と、Senicはドイツの企業ですが、Y Combinatorに応募した理由を教えてください。

Tobias：Y Combinatorには2013年夏のプログラムに参加しました。選んだ理由は、Y Combinatorは起業した理由やストーリーを重視していたからです。起業に至るまでのわれわれのルーツや課題と感じていること、なぜ自分たちがやろうとしていることが重要なのかを語ることは大切なことでした。

平野洋一郎（以下：平野）：インフォテリアはソフトウェア開発で世界を目指してきました。創業から18年が経過し、主力製品のASTERIAは6,000社近くが利用する製品に育ちました。企業データ連携ソフトウェアでは10年連続国内ナンバー1※2のシェアを誇っています。ですが、受託開発と違ってパッケージ製品は市場をみておかなければならない。より早くトレンドやニーズに気がつき、自社の考えを常にアップデートすることを心がけてきました。Y Combinatorへの参加も、アンテナとして役立っています。先にブロックチェーン分野でテックビューロとの提携を発表したり、多くの会社を束ねてブロックチェーン推進協会を立ち上げましたが、Y CombinatorのDemo Dayでブロックチェーンはビットコインのためだけではないと気がついたことが背景にあります。

Y CombinatorのDemo Dayでは多数のスタートアップがデモを行いますが、Senicに出資した理由は起業家精神を感じることができたからです。

Tobias：インフォテリアも平野さんと北原さんが起業した会社で、私たちと似ていると思いました。いまでも2人の起業家精神が感じられ、共感できるところがたくさんあります。

★

— IoT機器におけるNUIの重要性と、IoTのトレンドについてお聞かせください。

Tobias：パーソナルコンピューター（PC）、スマートフォンとざっくり10年ごとに重要な変化が起きています。ユーザーインターフェイスは新しいシフトで、スマートフォンと同じぐらい重要なものです。新しいインターフェイスはジェスチャー、ハプティックなどさまざまですが、例えば音声。認識率は95〜99%まで上がっており、音声での入力や反応という重要なシフトが起こるでしょう。大手も多数注目しています。

センサーも重要なトレンドです。新しい技術ではありませんが、価格が急激に下がっています。5年前まで20ドル程度だったWiFiチップが、現在は1ドル程度です。これが何を意味するのかというと、すべてのものがインターネットにつながるということです。

AR（拡張現実）、VR（バーチャルリアリティー）も挙げられます。2016年の年末商戦でたくさんの商品が出てくるでしょう。当面はゲーム主導ですが、将来はオフィスや仕事でもアプリケーションが出てきます。

平野：インフォテリアでもIoTは注目しています。これまで、「オモチャ」と言われたものが企業の情報インフラに不可欠になるのをいくつもみてきました。“歴史は繰り返す”ではないが、PCもインターネットも現在ビジネスに重要なツールはどれも「オモチャ」でスタートしています。現在、スマートフォンやタブレットといったデバイスが企業の情報インフラに入りつつあり、今後ウェアラブル、ドローンなども入ってくるでしょう。

それに合わせて、ASTERIAも、これまではSAP、Salesforce、Oracleといった業務アプリケーションやクラウドとつないできましたが、今後は新しい領域に広げていきます。インフォテリアの製品は「つなぐ」をキーワードとしており、IoTはつなぎ先としてとてもしっくりくるものです。

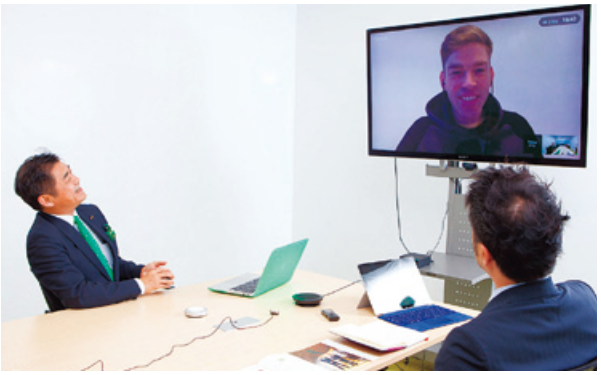
— それぞれの今後の計画をお聞かせください。

平野：先に2018年度までの中期経営計画を発表しました。海外比率を20%台、フロー売上率を20%台、営業利益率を20%台で増加させる“トリプルトウェンティ（Triple Twenty）”により売上を前年比1.5倍、営業利益を2倍にするというもので、IoTアプリやIoTデバイスとの連携はその重要な牽引役と考えています。

2016年度はIoT対応の開発プラットフォーム「Platio」を2017年1月下旬から販売開始、その後もエッジコンピューティングのためのミドルウェア「Gravity」（コード名）を投入する計画です。Gravityはクラウドにつながった現場＝エッジでIoT情報をいったんまとめたり、制御するもので、日本ではまだ注目が低いエッジコンピューティングベースのIoT分野を切り開くことになります。

PlatioやGravityが出ることで、IoT時代のデータの流れを全面サポートできます。IoTの世界ではその使用現場でデバイスやセンサーからのデータを集めたり制御する仕組みが必要で、Gravityはここを受け持ちます。また、Platioは人がIoTを活用するためのモバイルアプリを簡単に開発できるようにするものです。さらに、このようなIoTのデータをASTERIAを介してビッグデータ解析などに引き渡すことができます。また、コンテンツ管理「Handbook」により、加工されたデータをデバイスで視覚的に見ることもできます。

Tobias：Senicでも新たな製品を投入しています。現在のNuimoユーザーの典型的な使い方は、自宅に帰って壁に装着



しているNuimoを押してスマートフォンにある音楽を聴いてリラックスする、というものです。次の製品ではスピーチ、ビジョン、WiFiなどの機能を入れて、ミーティングルームで同じようなことを実現します。つまり、音声、ビジョン、ジェスチャーなどを使ってビデオ会議の設定をもっと簡単にし、会議そのものにフォーカスできるようにします。プラットフォームをオープンにすることで、既存システムとの統合も容易に行えるようになります。

平野：IoT機器を実際につないでオフィスや現場でのリアルな利用に役立てるために、本社ビル内に新たに拡張したエリアを「IoT Future Lab.」（略称：イフラボ）として開設しました。ここでは、Nuimoを始め100個以上のIoT機器を常備しています。インフォテリアの顧客やパートナーにIoTで実際に何ができるのかを見せたり、IoT機器メーカーのデモにも使ってもらいたいと考えています。プロトタイプができたら送ってください。イフラボにおきましょう。

※1　Y Combinator（ワイコンビネーター）：米国カリフォルニア州のVC（ベンチャーキャピタル）。少ないお金を出資しながら、徹底的に次の投資ラウンドに進めるように指導するのが特徴。最強のスタートアップ養成スクールとも呼ばれる。
※2　テクノ・システム・リサーチ社「2016年ソフトウェアマーケティング総覧EAI/ESB市場編」

会社概要 (2016年9月30日現在)

商　号	インフォテリア株式会社 Infoteria Corporation
設　立	1998年9月
本　社	〒140-0014 東京都品川区大井一丁目47番1号 NTビル10F TEL: 03-5718-1250
西日本事業所	〒530-0001 大阪府大阪市北区梅田二丁目4番13号 阪神産經桜橋ビル 3F TEL: 06-6344-1065
資本金	11億3,846万円
事業内容	XMLを基盤としたソフトウェアプロダクトの開発・販売
従業員数(連結)	71名

海外拠点 (2016年10月1日現在)

- Infoteria America Corporation
- 亿福天(杭州)信息科技有限公司
  Infoteria (Hangzhou) Information Technology Co., Ltd.
- 樱枫天(上海)贸易有限公司
  Infoteria China Co., Ltd.
- Infoteria Hong Kong Limited
- Infoteria Pte. Ltd.

役員の状況 (2016年9月30日現在)※は社外役員です。

代表取締役社長/CEO	平野　洋一郎
取締役	※ 五味　廣文
取締役	※ 田村　耕太郎
取締役	※ Anis Uzzaman
常勤監査役	※ 赤松　万也
監査役	尾崎　常行
監査役	※ 井上　雄二
監査役	※ 小口　光
執行役員 副社長/最高技術責任者	北原　淑行
執行役員/最高財務責任者	齊藤　裕久
執行役員	黄　曦

株式情報 (2016年9月30日現在)

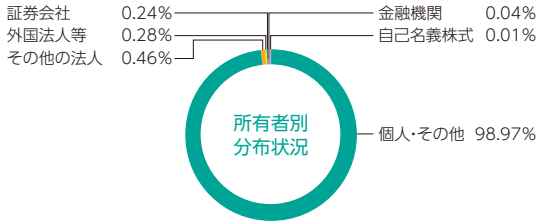
発行可能株式総数	44,600,000株
発行済株式の総数	15,403,165株 (自己株式554,203株を含む)
株主数	11,877名

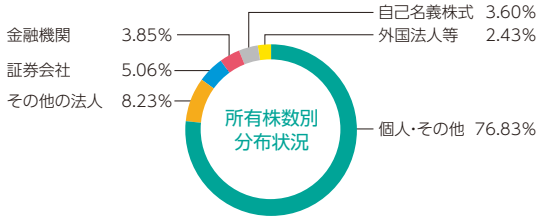
大株主 (上位10名)

株主名	当社への出資状況	
	持株数(株)	出資比率(%)
平野　洋一郎	2,040,000	13.24%
北原　淑行	957,200	6.21%
パナソニックインフォメーションシステムズ株式会社	550,000	3.57%
株式会社ミロク情報サービス	528,000	3.42%
株式会社SBI証券	326,700	2.12%
日本証券金融株式会社	267,800	1.73%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	245,200	1.59%
古谷　和雄	240,000	1.55%
中村　智史	124,800	0.81%
阪上　正	120,000	0.77%

(注) 1. 当社は自己株式554,203株を保有しておりますが、上記の表には記載しておりません。
2. 持株比率は自己株式(554,203株)を控除して計算しております。

株式の状況　合計株主数 11,877名





株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
証券コード	3853
上場証券取引所	東京証券取引所(マザーズ市場)
決算期日	3月31日
定時株主総会	毎年6月
基準日	3月31日
公告の方法	電子公告　ただし、やむを得ない事由により、電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載する方法により行います。
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社　証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 通話料無料 0120-232-711
特別口座の口座管理機関	三井住友信託銀行株式会社
同連絡先	三井住友信託銀行株式会社　証券代行部 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 通話料無料 0120-782-031
ホームページ	https://www.infoteria.com/

ご注意

- 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。
  株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行株式会社)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三井住友信託銀行株式会社が口座管理機関となっておりますので、三井住友信託銀行株式会社にお問い合わせください。株主名簿管理人である三菱UFJ信託銀行株式会社ではお手続きできませんのでご注意ください。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

皆様の声をお聞かせください！

infoteria VISIONについてのアンケートご協力のお願い

infoteria VISIONを最後までお読みいただきましてありがとうございました。インフォテリアWebページ上に本号に関するアンケートをご用意いたしましたので、お手数ですが、回答のご協力をお願い申し上げます。なお、ご回答いただいた方の中から抽選で20名様に500円のQUOカードを進呈させていただきます。

QRコード

アンケートページはこちら　https://www.infoteria.com/jp/contact/enq/ir_2016mid/

インフォテリア、ASTERIA、Handbook、Platioは、インフォテリア株式会社の登録商標です。
その他、各会社名、各製品名は各社の商標または登録商標です。

IRメルマガ配信中

インフォテリアの最近のニュースやトピックス、キャンペーン情報などを、「Infoteria VISION@Mail」として配信いたします。

こちらからご登録いただけます

https://www.infoteria.com/jp/contact/mail/ir_entry/

infoteria

〒140-0014 東京都品川区大井一丁目47番1号 NTビル10F　TEL:03-5718-1250

UD FONT　VEGETABLE OIL INK　FSC ミックス 責任ある木質資源を使用した紙 FSC® C013080